

研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
A-52C	16-125	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門
題名（原題／訳）		
<p>Risk factors cannot explain the higher prevalence rates of precancerous colorectal lesions in men.</p> <p>大腸癌の前癌病変の有病割合に性差を生じる危険因子の同定</p>		
執筆者		
Waldmann E, Heinze G, Ferlitsch A, Gessl I, Sallinger D, Jeschek P, et al.		
掲載誌		
Br J Cancer. 2016 Nov 22;115(11):1421-1429. doi: 10.1038/bjc.2016.324. Epub 2016 Oct 20.		
キーワード		PMID
大腸癌の前癌病変、男性、危険因子、有病割合		27764840
要 旨		
目的：		
男性の大腸癌の前癌病変の有病割合が、女性に比べて高いことを説明する危険因子を同定する。		
方法：		
2008～2012年にオーストリアの国家品質保証プログラムで実施された健診結果および大腸内視鏡検査結果を突合できた者を対象とした横断研究である。大腸癌の危険因子として、年齢、体格、血圧、血清脂質、血糖値、身体活動、喫煙、飲酒等を解析に用いた。大腸内視鏡検査結果により腺腫の有所見者と進行性腺腫の有所見者に分けて解析した。		
結果：		
分析対象は25,409人(女性割合50.8%、年齢中央値60歳)で、19.4%に腺腫、5.6%に進行性腺腫を認めた。変数減少法により選択した大腸癌の危険因子を調整したロジスティック回帰分析を行ったところ、危険因子は腺腫有病割合の性差10.4%のうち0.6%、進行性腺腫有病割合の性差3.2%のうち0.47%しか説明しなかった。喫煙は、男女とも腺腫とは関連を示した(男性(オッズ比(OR)1.46(95%信頼区間(CI)1.29-1.64)、女性OR1.76(95%CI1.53-2.06))が、進行性腺腫では、女性のみで関連を認めた(男性OR1.06(95%CI0.80-1.42)、女性OR2.08(95%CI1.52-2.83))。喫煙以外の危険因子は、BMI OR,1.35と中性脂肪 OR,1.03が腺腫と関連しており、身体活動なし(日常的に実施している者を対照として)、OR1.54、時々OR,1.17、血清コレステロール OR,1.13、血糖値 OR,1.05およびアルコールスコア OR1.09が進行性腺腫と関連していた。		
結論：		
大腸癌の危険因子は、男性の大腸癌の前癌病変の有病割合が女性より高いことを説明しなかった。		